

材料の力学1 第6回演習問題

[1] 平面応力状態にある十分に薄い弾性体において、図1のように x - y 座標系から反時計回りに θ ($0 < \theta < 90^\circ$) 傾いた n - t 座標系に沿う正方形微小要素を考える。薄い弾性体に対して x 方向に応力 σ_1 、 y 方向に応力 σ_2 が作用している ($\sigma_1 > \sigma_2$, $\sigma_1 > 0$)。弾性体の縦弾性係数を E 、横弾性係数を G 、ポアソン比を ν として、以下の設問に答えよ。なお、指示が無ければ解答には σ_1 , σ_2 , θ , E , G , ν のうち必要なものを用いよ。

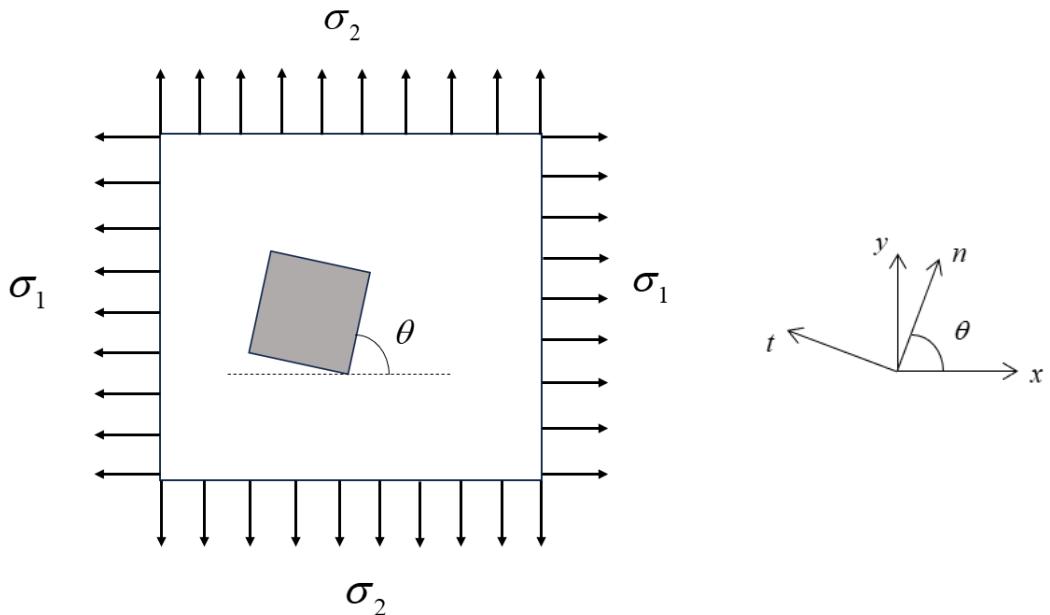


Fig.1 平面応力状態にある弾性体

- (1) x - y 座標系における応力テンソルを求めよ。
- (2) n - t 座標系における応力テンソルを求めよ。
- (3) x - y 座標系におけるひずみテンソルを求めよ。
- (4) n - t 座標系におけるひずみテンソルを求めよ。 (ここでは G を用いないこと)
- (5) n - t 座標系におけるせん断応力 τ_{nt} とせん断ひずみ γ_{nt} の関係を踏まえ、横弾性係数 G を E , ν を用いて表せ。

(1)x-y 座標系における応力テンソルを求めよ.

図から応力テンソルは

$$\begin{pmatrix} \sigma_x & \tau_{xy} \\ \tau_{xy} & \sigma_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \sigma_1 & 0 \\ 0 & \sigma_2 \end{pmatrix} \quad (1.1)$$

となる.

(2)n-t 座標系における応力テンソルを求めよ.

モールの応力円を描くと図 1.1 のようになる.

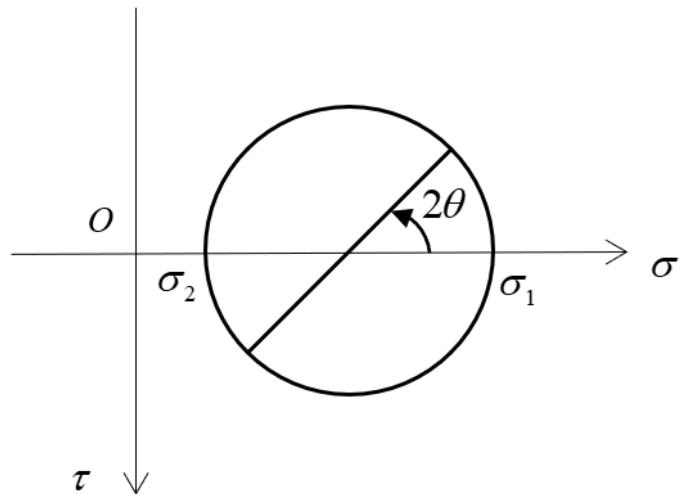


Fig.1.1 モールの応力円

モールの応力円から n-t 座標系における応力テンソルは,

$$\begin{pmatrix} \sigma_n & \tau_{nt} \\ \tau_{nt} & \sigma_t \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{\sigma_1 + \sigma_2}{2} + \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \cos 2\theta & -\frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \sin 2\theta \\ -\frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \sin 2\theta & \frac{\sigma_1 + \sigma_2}{2} - \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \cos 2\theta \end{pmatrix} \quad (1.2)$$

となる.

また, 行列計算でも求められる.

$$\begin{aligned}
& \begin{pmatrix} \sigma_n & \tau_{nt} \\ \tau_{nt} & \sigma_t \end{pmatrix} \\
&= \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \sigma_1 & 0 \\ 0 & \sigma_2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \\
&= \begin{pmatrix} \frac{\sigma_1 + \sigma_2}{2} + \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \cos 2\theta & -\frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \sin 2\theta \\ -\frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \sin 2\theta & \frac{\sigma_1 + \sigma_2}{2} - \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \cos 2\theta \end{pmatrix}
\end{aligned} \tag{1.3}$$

(3) x-y 座標系におけるひずみテンソルを求めよ。

平面応力状態より, $\sigma_z = \tau_{yz} = \tau_{zx} = 0$ なので, 応力とひずみの関係から

$$\begin{aligned}
\epsilon_x &= \frac{1}{E} (\sigma_x - \nu \sigma_y) \\
&= \frac{1}{E} (\sigma_1 - \nu \sigma_2)
\end{aligned} \tag{1.4}$$

$$\begin{aligned}
\epsilon_y &= \frac{1}{E} (\sigma_y - \nu \sigma_x) \\
&= \frac{1}{E} (\sigma_2 - \nu \sigma_1)
\end{aligned} \tag{1.5}$$

$$\begin{aligned}
\gamma_{xy} &= \frac{1}{G} \tau_{xy} \\
&= 0
\end{aligned} \tag{1.6}$$

よって, ひずみテンソルは

$$\begin{pmatrix} \epsilon_x & \gamma_{xy}/2 \\ \gamma_{xy}/2 & \epsilon_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{1}{E} (\sigma_1 - \nu \sigma_2) & 0 \\ 0 & \frac{1}{E} (\sigma_2 - \nu \sigma_1) \end{pmatrix} \tag{1.7}$$

となる。

(4) $n-t$ 座標系におけるひずみテンソルを求めよ. (ここでは G を用いないこと)

モールのひずみ円を描くと図 1.2 のようになる.

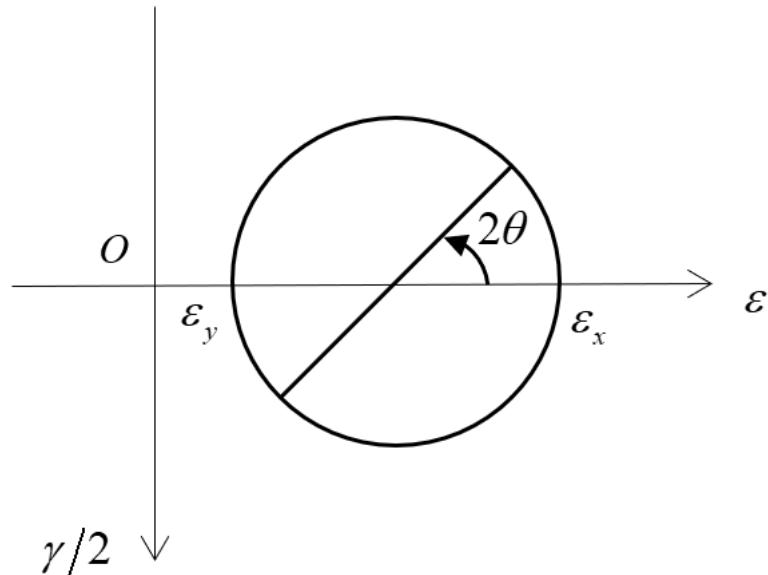


Fig.1.2 モールのひずみ円

モールのひずみ円から $n-t$ 座標系におけるひずみテンソルは

$$\begin{pmatrix} \varepsilon_x & \gamma_{xy}/2 \\ \gamma_{xy}/2 & \varepsilon_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{1}{E} \left\{ (1-\nu) \frac{\sigma_1 + \sigma_2}{2} + (1+\nu) \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \cos 2\theta \right\} & -\frac{1}{E} (1+\nu) \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \sin 2\theta \\ -\frac{1}{E} (1+\nu) \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \sin 2\theta & \frac{1}{E} \left\{ (1-\nu) \frac{\sigma_1 + \sigma_2}{2} - (1+\nu) \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \cos 2\theta \right\} \end{pmatrix} \quad (1.8)$$

となる.

また, 行列計算でも求められる.

$$\begin{aligned}
& \begin{pmatrix} \varepsilon_n & \gamma_{nt}/2 \\ \gamma_{nt}/2 & \varepsilon_t \end{pmatrix} \\
&= \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ -\sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \frac{1}{E}(\sigma_1 - \nu \sigma_2) & 0 \\ 0 & \frac{1}{E}(\sigma_2 - \nu \sigma_1) \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \\
&= \begin{pmatrix} \frac{1}{E} \left\{ (1-\nu) \frac{\sigma_1 + \sigma_2}{2} + (1+\nu) \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \cos 2\theta \right\} & -\frac{1}{E} (1+\nu) \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \sin 2\theta \\ -\frac{1}{E} (1+\nu) \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \sin 2\theta & \frac{1}{E} \left\{ (1-\nu) \frac{\sigma_1 + \sigma_2}{2} - (1+\nu) \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \cos 2\theta \right\} \end{pmatrix} \tag{1.9}
\end{aligned}$$

(5) *n-t* 座標系におけるせん断応力 τ_{nt} とせん断ひずみ γ_{nt} の関係を踏まえ、横弾性係数 G を E, ν を用いて表せ。

n-t 座標系において次の関係式が成り立つ。

$$\gamma_{nt} = \frac{1}{G} \tau_{nt} \tag{1.10}$$

よって、

$$\begin{aligned}
G &= \frac{\tau_{nt}}{\gamma_{nt}} \\
&= \frac{-\frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \sin 2\theta}{-2 \frac{1}{E} (1+\nu) \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{2} \sin 2\theta} \\
&= \frac{E}{2(1+\nu)} \tag{1.11}
\end{aligned}$$

となる。

[2]Fig.2 のように弾性体表面に描かれた△ABC が以下のよう応力状態にある。弾性体には面内荷重が作用しているものとし、辺の三か所にはひずみゲージが貼り付けられていて、すべての辺方向のひずみを求めることが出来る。

三角形の辺の長さは全て a 、厚さは単位厚さ=1、部材のヤング率を $E=40/3[\text{GPa}]$ 、ポアソン比を $\nu=1/3$ として以下の問い合わせに答えよ。

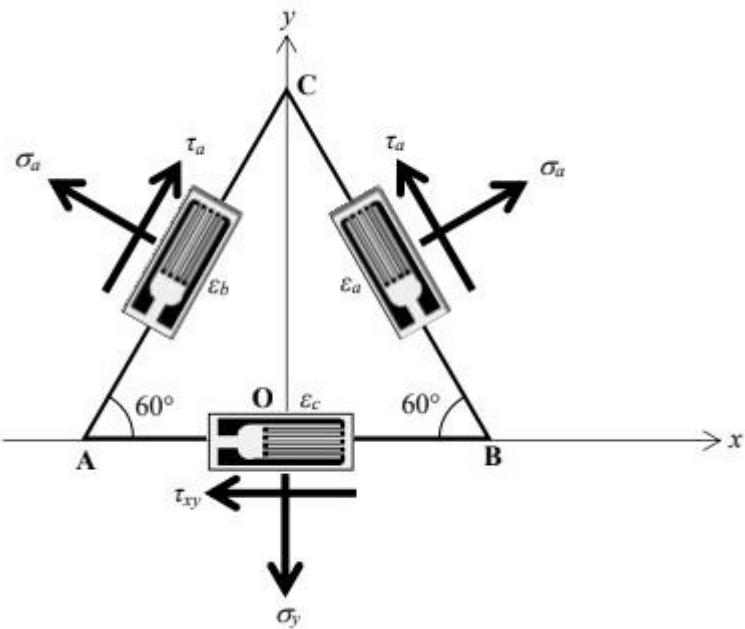


Fig.2 弾性体表面に描かれた正三角形の応力状態

- (1) Fig.2 を参考にして、 x 方向及び y 方向の力のつり合い式から垂直応力 σ_y 、せん断応力 τ_{xy} を σ_a 、 τ_a を用いて表せ。
- (2) 垂直応力 σ_x を σ_a 、 τ_a を用いて表せ。

以下の設問より $\sigma_a=3[\text{MPa}]$ 、 $\tau_a=\sqrt{3}[\text{MPa}]$ とする。

- (3) 応力成分(σ_x 、 σ_y 、 τ_{xy})を求めよ。
- (4) この時のモールの応力円を描け。
- (5) xy 平面の主応力(σ_1 、 σ_2)を求めよ。但し $\sigma_1>\sigma_2$ とする。
- (6) 応力とひずみの関係式から主ひずみ(ε_1 、 ε_2)を求めよ。但し $\varepsilon_1>\varepsilon_2$ とする。
- (7) この時のモールのひずみ円を描け。

- (1) Fig.2 を参考にして, x 方向及び y 方向の力のつり合い式から垂直応力 σ_y , せん断応力 τ_{xy} を σ_a , τ_a を用いて表せ.

x 方向, y 方向それぞれのつり合いは以下のようである.

$$x: \sigma_a \cos 30^\circ \cdot a - \tau_a \cos 60^\circ \cdot a - \sigma_a \cos 30^\circ \cdot a + \tau_a \cos 60^\circ \cdot a - \tau_{xy} \cdot a = 0$$

$$y: \sigma_a \sin 30^\circ \cdot a + \tau_a \sin 60^\circ \cdot a + \sigma_a \sin 30^\circ \cdot a + \tau_a \sin 60^\circ \cdot a - \sigma_y \cdot a = 0$$

整理することで

$$\tau_{xy} = 0 \quad (2.3)$$

$$\sigma_y = \sigma_a + \sqrt{3}\tau_a \quad (2.4)$$

- (2) 垂直応力 σ_x を σ_a , τ_a を用いて表せ.

σ_a を σ_x , σ_y , τ_{xy} を用いて表すと以下のようになる.

$$\sigma_a = \sigma_x \cos^2 30^\circ + \sigma_y \sin^2 30^\circ + 2\tau_{xy} \sin 30^\circ \cos 30^\circ \quad (2.5)$$

(2.5)に(2.3)(2.4)を代入し整理することで

$$\sigma_x = \sigma_a - \frac{\tau_a}{\sqrt{3}} \quad (2.6)$$

- (3) 垂直応力 σ_x を σ_a , τ_a を用いて表せ.

(2.3)(2.4)(2.6)に各値を代入することで

$$(\sigma_x, \sigma_y, \tau_{xy}) = (2, 6, 0) \text{ [MPa]} \quad (2.7)$$

- (4) この時のモールの応力円を描け.

(2.7)よりモールの応力円は Fig.2.1 のようになる

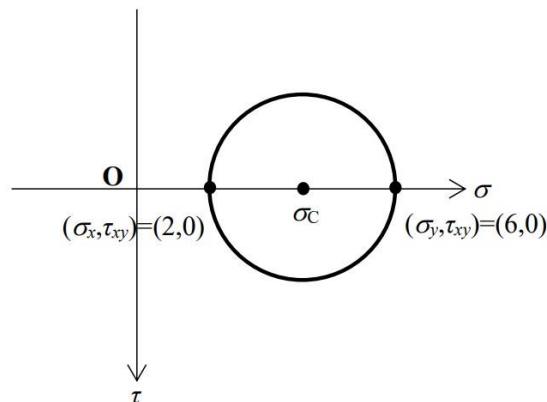


Fig.2.1 モールの応力円

Fig.2.1 よりモールの応力円の中心 $(\sigma_c, 0)$ および, 半径 r は

$$\sigma_c = \frac{1}{2}(\sigma_x + \sigma_y) = 4 \quad (2.8)$$

$$r = \sigma_c - \sigma_x = 2 \quad (2.9)$$

(5) xy 平面の主応力(σ_1, σ_2)を求めよ. 但し $\sigma_1 > \sigma_2$ とする.

Fig.2.1 より

$$(\sigma_1, \sigma_2) = (6, 2) \text{ [MPa]} \quad (2.10)$$

(6) 応力とひずみの関係式から主ひずみ($\varepsilon_1, \varepsilon_2$)を求めよ. 但し $\varepsilon_1 > \varepsilon_2$ とする.

$$\begin{aligned} \varepsilon_1 &= \frac{1}{E}(\sigma_1 - \nu\sigma_2) \\ &= \frac{3}{40 \times 10^3} \left(6 - \frac{1}{3} \times 2 \right) \\ &= 400\mu \end{aligned} \quad (2.11)$$

$$\begin{aligned} \varepsilon_2 &= \frac{1}{E}(\sigma_2 - \nu\sigma_1) \\ &= \frac{3}{40 \times 10^3} \left(2 - \frac{1}{3} \times 6 \right) \\ &= 0 \end{aligned} \quad (2.12)$$

よって

$$(\varepsilon_1, \varepsilon_2) = (400\mu, 0) \quad (2.13)$$

(7) この時のモールのひずみ円を描け.

(2.13)より

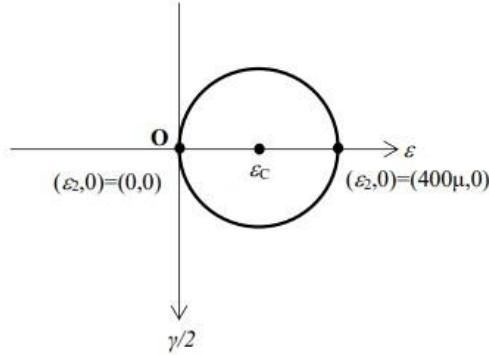


Fig.2.2 モールのひずみ円

また, 中心($\varepsilon_c, 0$)および半径 r は

$$(\varepsilon_c, 0) = (200\mu, 0) \quad (2.14)$$

$$r=200\mu \tag{2.15}$$